

第3回通常総会が開催されました

本 部

第3回通常総会が令和元年6月25日13:30分よりYMCAセンター会議室にて正会員数51名のうち出席者数39名(委任状31名)76%の出席で開催されました。

今年度は新型コロナの影響を考慮し、できるだけ議決兼行使書と委任状により実際の出席者が少なくなるように誘導して開催しました。しかしながら、議案の内容は今後のライフ熱都の在り方を左右する重要な内容ばかりでしたので、多くの人に参加していただき議論が深められなかったのが残念でした。ただ、一方向の議論にならないようにご意見拝聴の返信書面を付けたところ、幾人かの方から基調なご意見が寄せられましたので歪な形の総会を少しは修正することができました。

審議の結果は、第1号議案から第5号議案まで満場一致、第6号議案は反対票1票で圧倒的賛成多数で承認可決されました。

今期の重点施策

理事長 青田克己

NPO法人ライフ熱都が発足して3年目を迎え、綾野理事長の後を引継いで今後2年間のかじ取り役を任せられました。

熱海市の人口減少数毎月30人に歯止めをかけるべく首都圏から高齢者の移住を5年前から推進している私どもの活動はアフターコロナの時代にも通用する画期的な持続可能な手段と確信しています。その方策は



1. 熱海CCRC推進協議会の継承・・・東京都、神奈川県など首都圏から熱海への高齢者の移住促進策を移住セミナーの開催を中心に今まで以上に深化させる。
2. 既移住者対策・・・既に過去5年間に熱海に移住した方々がUターンされないように市内での仲間意識を感じるような仕掛けを早急に確立する。
3. サロンの開設・・・地元居住者、移住者が区別なく楽しく懇談でき、楽しいイベントを経験でき、アンチエイジング効果もある不思議な空間を街中に創り出す。
4. 移住希望者対策・・・首都圏から熱海市に移住を

希望した際に相談窓口が皆無なこと解消・・・NPO法人ライフ熱都のベテラン相談員が中心になって移住希望者に寄り添い親身になって衣(意識、医療、衣料)食住のアドバイスをする移住センターの開設をする。

5. 熱海に移住してよかった・・・この気持ちを大切に持ち続けられるような受け皿づくりをします。

新任理事の横顔

野口勝俊

昭和39年(1964年)、熱海市生まれ。

宅地建物取引士。首都圏(東京・横浜・湘南)及びリゾートエリアの不動産仲介会社、戸建分譲会社にて勤務。現在、静岡県「しずおか移住応援団」協力店、有限会社アシスト伊豆に在籍中。一般社団法人グリーンエネルギー推進協議会(熱海市)正会員、NPO法人 atamista(熱海市)正会員。



【私の思い】

熱海には人を惹きつける不思議な魅力があるように思います。その"力"によってでしょうか、ライフ熱都の活動にご参加いただいている会員様の多くが熱海をお選びいただき移住された方達であるとのこと、熱海生まれの私としましては大変光栄に思っております。と同時に、"熱海に移住して本当に良かった"との感想をお持ちいただけているのか?といった事が気に掛かる場所でもあります。時にこの町が、"もっと、こうであって欲しい"であるとか、"もっと、こうはならないのか"などの思いをお持ちになられることも少なくないかもしれません。きっとそれは皆様が、熱海が本来もっと魅力的な場所でありうると思いをもちいただいているからだと思います。私もまだまだ熱海の其処彼処に、その魅力の"原石"が見過ごされたままになっているように思えてなりません。その魅力の"原石"のひとつひとつを、今日求められるかたちに皆様と共に磨きあげていけたらと願っております。

島田充克

昭和24年(1949年)横浜市生まれ。工業高校卒業。メーカーで開発、営業を経験。イベント会社経営、町内会活動に参加。

【自己紹介】

敢えてやりがいのある半導体部品製造の中小企業に入社。社員4人から5年後には社員300人の会社に成長する高度成長期のサクセスストーリーを実体感した。自らは技術職と



して技術革新の目玉を開発し会社に大きく貢献、その後営業職に転じ、社会勉強を通じて人間関係の機微が大切であると理解するようになった。

33歳で独立、スポーツ関係のイベント会社を営んで軌道に乗せたが、バブル崩壊で廃業。その後、保険営業のコンサルタントなどを経験して66歳で自主定年。その間60歳から地元池袋の町内会活動に参加して地域活動の面白さを知るとともにお役立ちもできた。

好きな熱海には3年前に移住してきましたが、現役時代に何度も通った熱海には愛着があり、現状の熱海に「何とか元気になってほしい」という思いでライフ熱都の活動に参加するようになった。私の目標は「人を動かすためには自分自らが動く」という確信のもと、コミュニケーションをいかに深めるかをテーマに街おこし活動に貢献することです。

なんでも相談してください。すぐに動きます。

サロンの名前を付けてください

本 部

いよいよサロン計画が具体的になってきました。コロナの影響など外部環境にもよりますが、現在のスケジュールでは10月中旬オープンに向けて動いております。

所在 熱海市中央町 19-27(市役所前バス停横)

ツイキビル 2階又は4階

面積 約45坪

今回の計画は今期事業計画の議案の中で触れておりますようにシニア、移住者向けの情報センター的な役割を担っており、性格的には本来行政が担うべき分野ですがあえてライフ熱都で取り組みます。その一番の理由は、お役所的でなく、利用者が気楽に立ち寄れる空間を作り、情報交流によってシニアパワーを引き出すことにあります。

ネーミングは“たかがネーミング、されどネーミング”と言われ非常に重要なポイントです。現在“^{よりどころ}拠点”“^{あつと}熱都ホーム”などの案が出されていますが、皆様のお知恵を貸してください。



小田原 UMEKO 見学研修会

本 部

実質今年度のスタートに当たり青田丸での発進第1弾として、対応を迫られているサロン計画の参考にすべく小田原市の市民情報センター UMEKO の見学会に行



ってきました。できれば定例会の前にサロンの認識の共有化をしたいということで急遽企画したものです。当日は露木センター長、椎野副センター長が丁寧に対応くだ

さり、我々の意図を察した質問などで研修の成果を高めていただきました。

UMECO(梅の花でなく像の名前に由来する)は我々がやりたいと思っていることを行政が率先して施



設整備したもので利益を目的としたスペースづくりはなく、利用者優先、地域優先の施設計画でした。理想に近い現物を見ると我々の計画が小さく見えたが、しかしそれすらなかったのだから必ずやり遂げなければと痛感した次第です。当日の参加者7名

助成金決定 熱海市、船井幸雄記念財団

本 部

今年度でいずれも3回目になる熱海市と船井幸雄記念財団に活動資金の助成申請をおこなった結果、下記のようにになりました。

熱海市 20万円(昨年度は20万円)

船井幸雄記念財団 47万円(昨年度32万円)

熱海市は制度上許される3年目としての最高額、船井幸雄記念財団からも過去最高額という嬉しい結果になりました。

今年度は特にサロン開設という大事業にチャレンジするため特段のお願いをした結果が反映されたものと受け止めており、来年も同じ様にはいきません。新たな資金源を模索するとか早く自立することを目指さなければなりません。

新年度の会員更新のお願い

理事長 青田 克己

今年度はサロン開設という大変大きな事業を抱えており、資金的にも大変厳しい状況が想定されております。ここを乗り越えることができれば、拠点もできるし新たな収益事業も視野に入ってきます。3年目で胸突き八丁に突き当たるという局面になりました。皆さんと力を合わせてこの大きなヤマを乗り越えたいと思います。皆様のマンパワーと資金の熱いご支援をお願いします。

正会員

個人 3,000円

法人A 50,000円

法人B 30,000円

賛助会員

個人 5,000円以上

法人 30,000円以上

振込先 **スルガ銀行** 熱海支店普通預金 3619864

口座名 NPO法人ライフ熱都

郵貯銀行 記号 12330 番号 59595831

口座名 (トクヒ)ライフネット

※他機関からの振込 店番 238

普通預金 5959583